

平成29年度認知症地域支援推進員研修  
Ⅱ 認知症の人とその家族の支援体制の構築及び  
認知症ケアの向上を図るための取組みの推進  
『支援体制構築（事例②）』

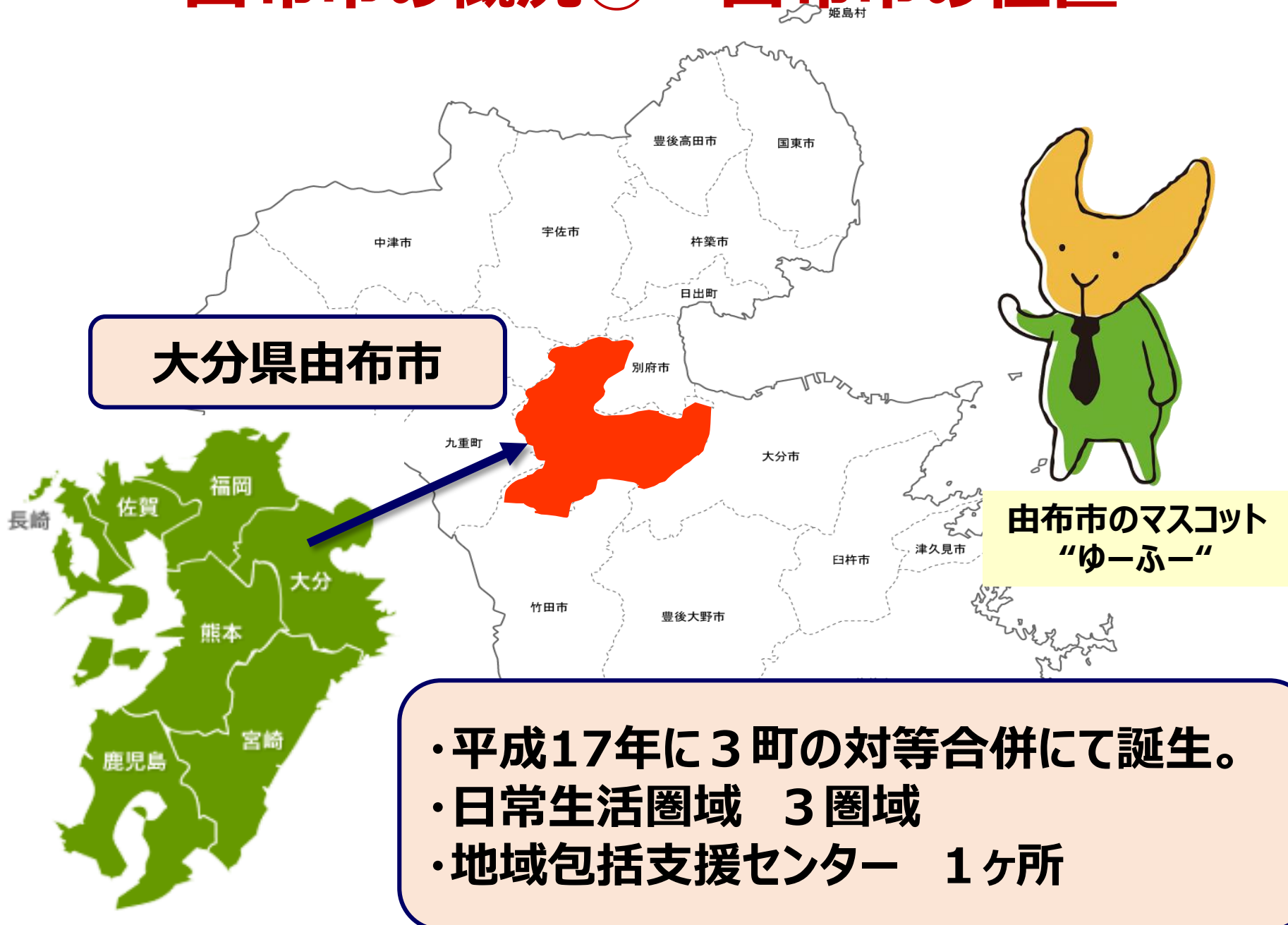


# 地域活動活性化に向けた 働きかけ



由布市社会福祉協議会  
認知症地域支援推進員  
太田 加奈子

# 由布市の概況① – 由布市の位置



大分県由布市

由布市のマスコット  
“ゆーふー”

- ・平成17年に3町の対等合併にて誕生。
- ・日常生活圏域 3圏域
- ・地域包括支援センター 1ヶ所

# 由布市の概況② - 人口構成と高齢化率



大分大学医学部

湯布院町 33.3%



観光地 由布院

挾間町 26.7%

## 由布市の年齢別人口

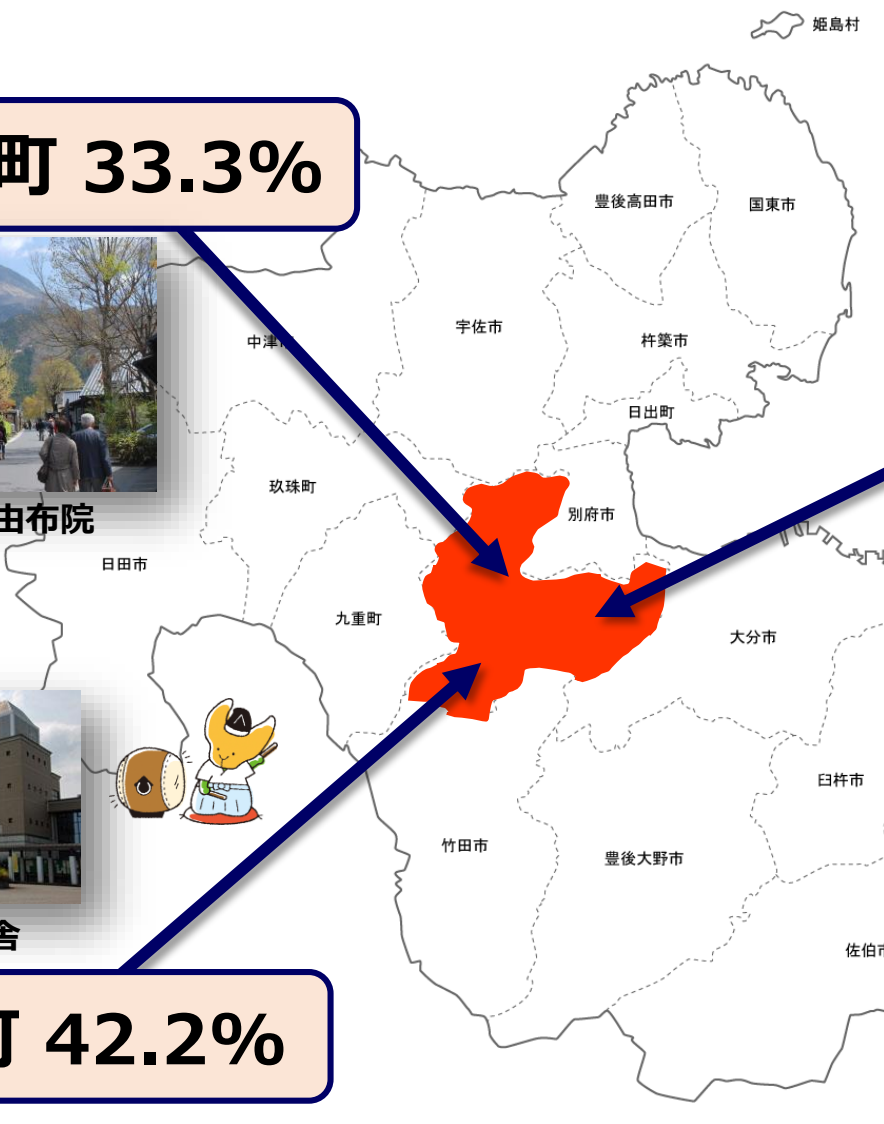
総人口	34,931人
0 ~ 14歳	4,367人
15 ~ 64歳	19,309人
65歳以上	11,255人

平成29年4月末現在

庄内町 42.2%



庄内庁舎



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）を使用したものである。（承認番号 平19総使、第82号）

# 由布市の概況③ – 高齢者を取りまく状況

総人口	34,931人
高齢者人口	11,255人
高齢化率	32.2%
世帯数	15,540世帯
要介護認定者数	2,217人
要介護認定率	20.3%
日常生活自立度Ⅱ以上	1,422人
第6期介護保険料	5,990円
認知症サポート医	4名
認知症地域支援推進員	1名

An illustration showing a male doctor in a blue coat and glasses sitting at a desk with a laptop. A yellow cartoon character with a crescent-shaped head is sitting next to him, looking at some papers on the desk.

# 由布市の認知症施策の全体像

認知症の人とその家族が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができる。



## 1) 標準的な認知症ケアパスの作成・普及

- ① 由布市認知症あんしんガイド（地域ケアパス）
- ② 今の私を伝えるあんしんノート（個人ケアパス）

## 3) 地域での生活を支える医療・介護サービスの構築

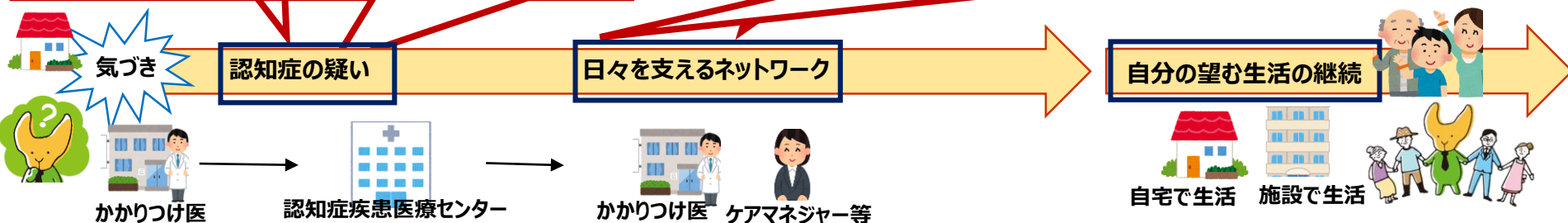
- ① 由布物忘れネットワーク（かかりつけ医を中心とした多職種連携ネットワーク構築）
- ② 由布オレンジネットワーク推進会議（在宅医療連携事業と協働）

## 2) 早期診断・早期対応

- ① 大分オレンジドクターのフォローアップ研修
- ② 認知症初期集中支援チーム活動
- ③ 認知症疾患医療センターとの連携

## 4) 若年性認知症の人と家族への支援

- ① オレンジカフェ由布（認知症サポート医が開催）との連携
- ② 若年性認知症コーディネーター（大分県）との連携



## 5) 地域での日常生活・家族の支援の強化

認知症地域支援推進員（配置先：由布市社会福祉協議会）

### 地域全体で関心を高め、支える

- ① 認知症サポーターキャラバンの継続実施  
○ 教育委員会を通して、小中学校での実施  
○ 大分オレンジカンパニーの推進
- ② 由布RUN伴の開催支援  
○ 認知症の人もそうでない人も子供から大人まで参加し、タスキをつなぐ。

### 当事者・家族を支える

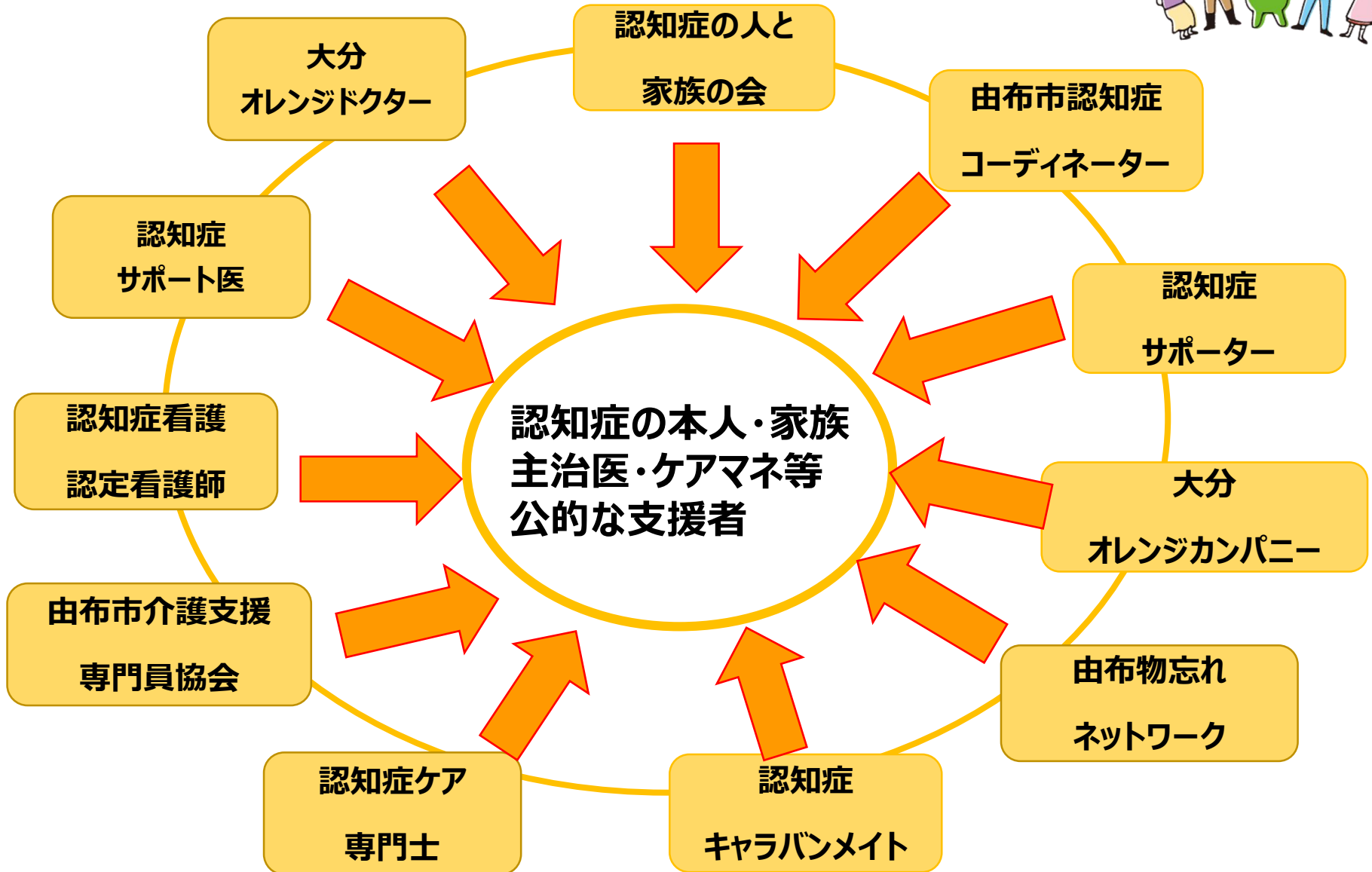
- ① 由布市あんしんネット  
高齢者等SOSネットワーク事業
- ② 由布市徘徊模擬訓練  
全世代参加型の訓練を年に1回開催
- ③ オレンジカフェの開催支援  
市内3ヶ所で地域特性を活かし開催
- ④ 認知症の人と家族の会との連携  
つどいへの参加、啓発活動
- ⑤ 成年後見制度  
市長申し立ての支援

### 専門職資源のネットワーク

- ① 由布市認知症コーディネーター養成  
市独自でH25～H27年度養成し、32名が登録
- ② 由布オレンジの会  
（認知症地域活動支援ボランティア事業）  
地域活動を行なう意欲のある人を登録し、  
由布市の地域活動に派遣し、活性化を図る。

# 認知症の人を地域で支えていくための支援体制

由布市内で地域活動を行ってくれる人材が年々増加。  
当事者を支える地域活動も活性化。



認知症サポート医が開催したり、認知症サポーターが支援したり・・・



# ①地域の社会資源の活用をしたオレンジカフェ

## オレンジカフェ ゆふいん原っぱ

- ・観光地にある民間のカフェで開催。
- ・会場と送迎はカフェより無償提供
- ・食事もでき、滞在している外国人との交流も。



## オレンジカフェ 由布

- ・認知症サポート医が事業所主催で開催
- ・若年性認知症への支援が手厚い
- ・出張型、大学医学部生の参加も



## オレンジカフェ ほっと柿の木

- ・野菜直販店舗のカフェスペースで開催
- ・地域の医師が開催をサポート



介護支援専門員協会、大分オレンジドクターも一緒になって・・・

## ②タイムリーに多機関連携が行う緊急事例検討会

### 前頭側頭型認知症の70代、男性 Sさんの事例を通して・・・

本人の思い 『（元々運動が好きな人で）歩きたい！』

妻の思い 『できる限り本人の好きなように生活させたい。』

携帯のGPSで本人の位置情報を検索し、電話をかけて迎えに行くことを繰り返す。

警察の思い 『保護が続いているので心配。』



### 行政・介護支援専門員協会・社会福祉協議会の三者で研修会を開催

今まで、Sさんを見かけたことのある人に『どこで』『何時頃』歩いていたかの情報を共有し、行動範囲のパターンを検討。訪問や送迎等で外出する際に、みんなで見守っていこうと確認しました。



専門職の一員として、地域に暮らす一員として、Sさんの散歩を見守る

→認知症が他人事ではなく、自分が暮らす街の課題として考える



# ③ 住民主体の由布市徘徊模擬訓練

年に1回開催し、区域に住んでいる人へ向けてアウトリーチ



## 由布市徘徊模擬訓練の特徴

- ① 搜索訓練ではなく声かけ訓練
- ② 専門職や消防団ではなく、地域住民主体の訓練  
→ 専門職は住民が認知症を知り、声をかけられるようにサポート
- ③ 全世代が参加
- ④ 開催地域の特色

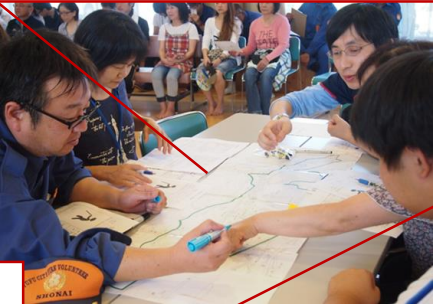
理由もなく歩いているわけではない！

### 認知症の人にやさしい街づくり

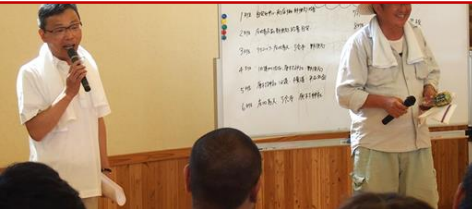
第3回 由布市徘徊模擬訓練のご案内



■日時 平成28年7月31日(日) 9:00~12:00  
 ■場所 由布市庄内町庄内原  
 ■運営本部 由布市社会福祉協議会 ほのほのプラザ 市民交流室  
 企画・運営: 由布オレンジネットワーク推進会議  
 由布市  
 由布市社会福祉協議会



学生～大人まで一緒に



上手に声をかけられるようになりました。

認知症の人と家族の会や大分オレンジカンパニーも一緒になって走って、応援・・・



# ④ 共生の街づくりのきっかけとなる由布RUN伴

オレンジのTシャツで、3町を西から東へ42.2km、タスキをつなぎながらかけ抜ける。  
当事者は**勇気**を、専門職は**連携のきっかけ**を、地域は**認知症を知るきっかけ**に



今日のご褒美やった。  
いつも大変なことばかりやけど、  
これだけ多くの人が見守って  
くれちゃんのやなあ。  
頼っていいんやなあ・・・

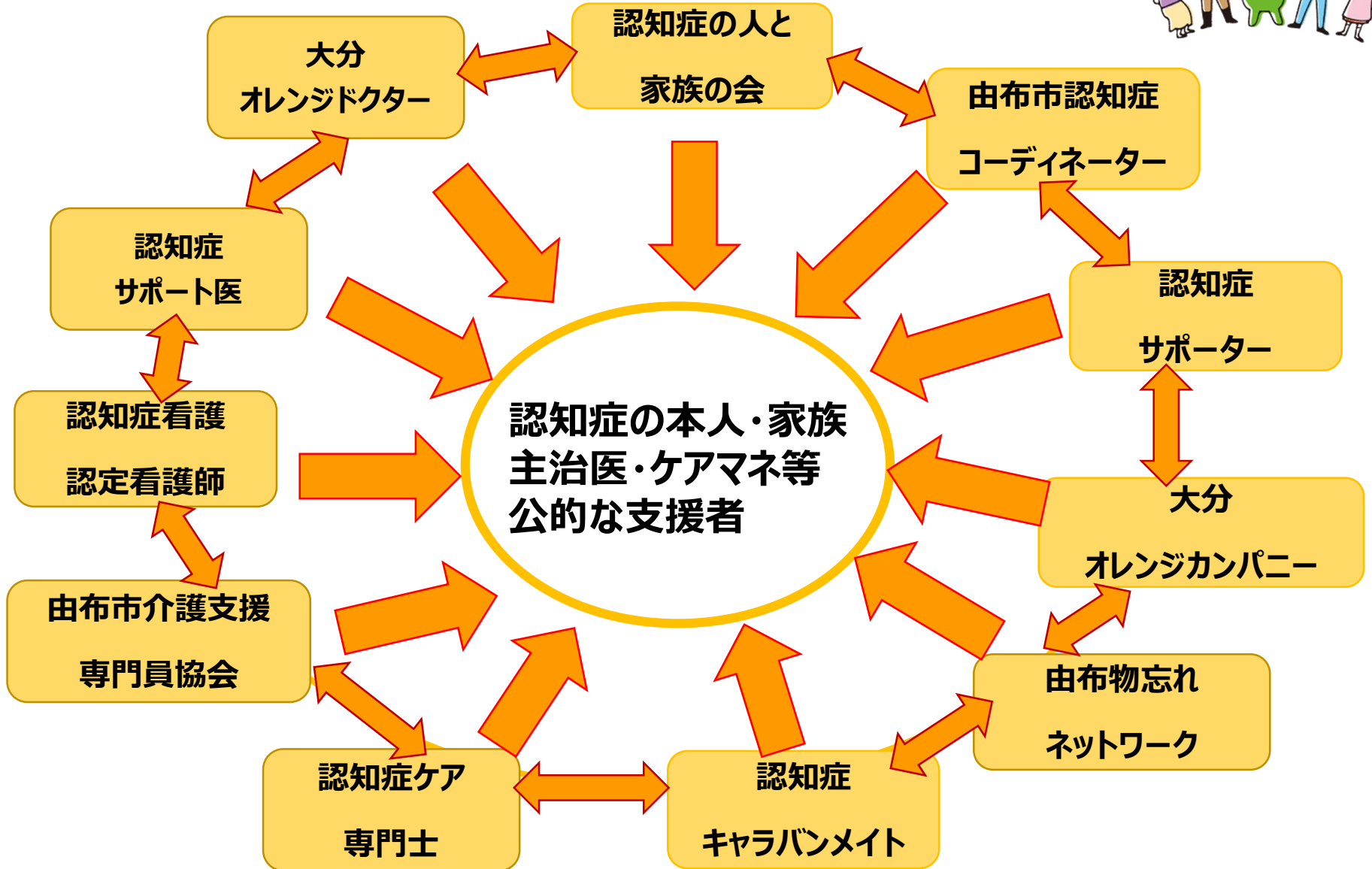


認知症の人と家族を支える体制や  
啓発のための事業は確かに  
広がっている。  
でも、その横のつながりは？



# 認知症の人を地域で支えていく人同士の連携

お互いの活動をもっと知ること、地域活動はもっと活性化してくのでは？



# 由布市オレンジの会の発足に向けて①

そもそも由布市では・・・

## 【認知症施策の方針】

認知症の人とその家族が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができる。

### 《平成27年度目標》

認知症の人を支える輪を広げる

### 《平成28年度目標》

認知症の人を支える関係者・関係機関の連携強化

### 《平成29年度目標》

自発的な取り組みができるような人・機関が増える。

## 推進員が課題と感じていたこと

○独自に認知症コーディネーターを養成し、自主的な活動を行なえるようにフォローアップ研修を行ってきたが、組織化については消極的な意見が多く、活動が広がらない。

また認知症コーディネーターのモチベーションの幅が大きく、今後の方針がまとまらない。

○認知症サポーター養成講座の依頼が多くなってきたが、キャラバンメイトのみでは不安と言われる。一方で・・・

○「地域活動をもっとしたい」「認知症サポーター養成講座に小学校に行ったと聞いたけど、声をかけてもらえなかった」という積極的な意見も多い。



**地域活動の需要と供給の調整が必要！**



# 由布市オレンジの会の発足に向けて②

## 認知症地域活動活性化のための仕組み



認知症地域支援・ケア向上事業

実施主体：由布市福祉課



委託

由布市オレンジの会

運営主体：由布市社会福祉協議会（認知症地域支援推進員）

- ・オレンジの会の会員登録
- ・活動先との調整
- ・報告会及び研修会の実施（年1回）

認知症に関わる地域活動として申請  
（介護保険事業所・各種団体等）



オレンジカフェスタッフ



由布RUN伴



由布市オレンジの会  
（由布市社会福祉協議会内）

徘徊模擬訓練スタッフ



研修会準備スタッフ等



サポーター養成講座



啓発活動へ派遣



活動時間数に応じてポイントを付与し、たまったポイントを由布市内で使える商品券に交換できます。  
1 P・・・概ね30分以上 3 時間未満、2 P・・・概ね 3 時間以上6 時間未満



# 由布市オレンジの会の発足に向けて③

## 由布市オレンジの会のご案内

由布市オレンジの会は、由布市が目指す【認知症の人と家族にやさしい街づくり】を一緒にお手伝いしてくれる人を登録し、活動支援や調整を行なうための組織です。



### 由布市オレンジの会に登録できる人

- 由布市認知症コーディネーターとして由布市に登録されている人
- キャラバンメイトとして由布市に登録されている人
- 認知症介護実践リーダー研修を受講し、由布市内で従事している人
- 認知症ケア専門士として、由布市内で従事している人
- 認知症看護認定看護師として、由布市内で従事している人

上記に該当する人で、概ね年に2回程度の地域活動が行える人

### 【活動内容】

- ①地域で認知症の啓発を行なう際のスタッフ
  - ②認知症サポーター養成講座を行う際のスタッフ
  - ③由布市で開催される認知症関連事業のスタッフ
  - ④オレンジカフェ開催スタッフ
  - ⑤研修会開催時のスタッフ
- など、由布市の認知症関連地域活動において、依頼に応じて、登録者に活動をしていただきます。

### 活動ポイントの付与

活動時間数に応じてポイントを付与し、たまったポイントは由布市内で使える商品券と交換します。

- 1P・・・概ね30分以上3時間未満
- 2P・・・概ね3時間以上6時間未満

実施主体：由布市

運営主体：由布市社会福祉協議会（担当：認知症地域支援推進員 太田）

## 発足で期待されること

- ①地域活動の需要を把握し、会員みんなに呼びかけることで、供給体制を整える。
- ②事業として展開することで、地域活動を行なう人や機関が活動が行いやすくなる。
- ③会としての報告会をもうけ、自分が参加していない地域活動を共有することができる。
- ④活動ポイントとしてたまっていくことで、自身の地域活動の足跡として感じてもらえる。

そして何より・・・

**認知症の地域活動を行なっているフォーマルな専門職が、インフォーマルな資源として地域活動を行なうことで地域活動が活性化するのは！**

**いつもの仲間から一歩すすんで、新たに活動できる仲間が増えるかも！**



## 訪問等の見守り事業は？

専門職が行うオレンジの会の活動ではなく、認知症サポーターの人を対象に「**由布市みかんの会**」を発足予定。

# 由布市オレンジの会の発足に向けて④

## 認知症地域活動支援ボランティア事業のイメージ図

従来の地域による見守り活動  
【民生委員・老人クラブ等による見守り活動】

**支えあいのネットワーク活動**  
・近隣住民による声かけ

由布市みかんの会（H30年度発足予定）  
【認知症サポーター等による見守り支援】

**当事者の地域での見守り支援**  
・訪問による見守り  
・訪問による傾聴 など・・・

由布市オレンジの会  
【専門職による地域活動支援】

**認知症地域活動の事業推進**  
下記事業において中心的な役割を担うための人材

認知症地域支援推進員  
【活動のとりまとめ】

**認知症地域活動の事業展開**  
・由布市徘徊模擬訓練  
・オレンジカフェ  
・認知症サポーター養成講座  
・由布RUN伴 など・・・





# 由布市オレンジの会の発足に向けて⑤

## 平成29年6月27日 発足式を開催

市内の事業所や会員として活動してくれそうな人に声かけし、60名程度が入会の意思を表明。  
発足式には30名が参加し、サポート医からこの会の指針をオレンジドクターからエールをもらいました。

20代～70代まで  
幅広い世代が入会



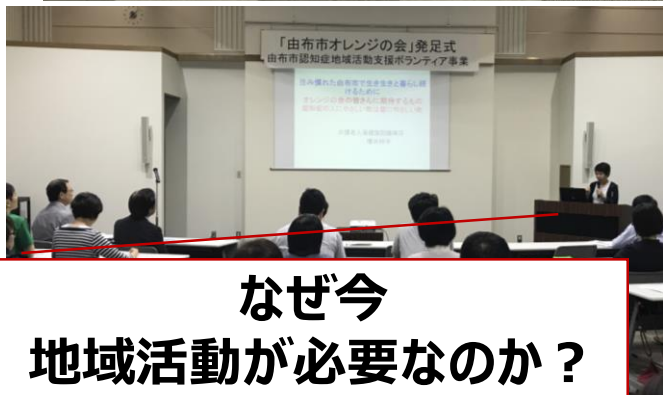
### 会員の特徴

- 1) 地域活動をボランティアとして  
行う意欲のある専門職として、  
医師が4名も会員に  
→地域活動を行う仲間として入会
- 2) 国立大学の教員も会員に  
→地域活動が学生にも広がるかも
- 3) 退職した専門職も入会  
→平日日中などの活動や高齢者  
の劇をするときに活躍を期待

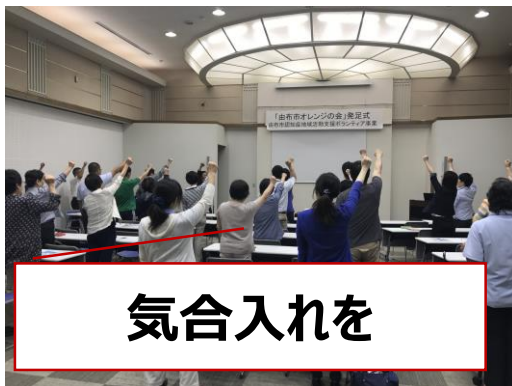


これだけ多くの方が、1人の個人として、認知症の人と家族を支えたいと思っている・・・

## 由布市の宝



なぜ今  
地域活動が必要なのか？



気合入れを

認知症の人や家族が、地域から切り離されることなく、  
安心して地域で生活をするために、  
住民、行政、医療機関、介護・福祉機関、教育機関が  
一体になって、地域づくりを行なっています。

**認知症の人にやさしい街は、  
認知症でない人にとってもやさしい街  
だと思います。**

無理せず、一步一步、たくさんの人を巻き込みながら  
事業をすすめていけば、推進員さんの応援団ができてはるはず！

**ご清聴ありがとうございました。**

